

郷土産業考察の一例(中)

淡 川 康 一

さて、是等の事情下、労働者の地位は、如何にして、形成されるか。吾人は、工場に於ける本来の労働者を労働者に算入するのみならず、又、助手なしに、或いは、数名の助手を伴い、労働する処の親方をも、労働者として、取扱はんとするものであつて、普通の言葉の使用例によつて、製造家と称し得ない処の、総てのものを包含する。

今、述べ來つた処の、総ての、是等の人々の地位に対して、玩具工業独得の事情は、悪運とも云う可き影響を及ぼすのである。凡そ、玩具工業は、唯一の短い季節、即ち耶蘇降誕祭を持つのみであつて、此の季節より少し以前に、若し、大商人の需要が、充當されるならば、失業が初まり、此の場合、失業は、十一月の終りから、五月の初めまで、続くのであるから、一年の中で、欲望の最も豊かな、数個月を通じて継続する訳である。かくして、僅かの貯蓄は、速かに、消尽され、今や、労働者の家族は、地下室の僅かの馬鈴薯に、その生命を委ね、或いは、窮迫せる家族は、小売商人及び高利貸の手中に落ちるのである。此の時に、玩具製作者は、新型を考案し、是を前貸人から、前貸人へと、提供する。然し、一方、前貸人の側に於いては、労働者が窮境に陥るまで、

注文を差控え、自己に有利になるまで、価格下落を待つのである。又、大量の注文を発する場合には、可成りの割引を要求し、是等の場合、何れも、労働者は、総て、同意を強ひられるであろう。所謂製造業者は、此の場合、更らに、その下受け工たる彫刻、圧迫者、声を出す人等に転嫁し、終局に於いて、減価、割引の大部分は、最も弱い者に於いて、是を引受けることになるであろう。かくして、村落に於ける労働者の若干数は、殆ど、木材よりも、より多くが、支払はれて居らず、為めに、是を、盗まねばならぬと云う、暗黙の前提が、恰ねく、認められているのである。

注文が、四月又は五月に、亜米利加から来る時に、此の事業は、活気を呈し初めるが、主なる労働は、暑月の六月から九月までに集中し、此の短い期間は、労働者によつて、極度に、利用されねばならぬのであつて、家計は、沈滞の休止月の間に、此の分も、共に創造されるのである。数週間、否、更らに、数個月に亘つて、日々、十八時間乃至廿時間労働し、而かも、全力を挙げて、働らく。而かも、此の労働たるや、最も低い価格で、一方、又、狭く、極度に暑い住家に於いて、営まれるのである。老婆も、年少者も、同様に、仕事机に倚りかかり、金曜日から、土曜日にかけては、通常、徹夜労働に従事し、以つて、供給の旺季に、間に合ふ様に、完成するのである。而して、是等の人々の外的生活状態は、唯、かかる過勞に、耐えることのみを、目的として、営まれているのである。

大抵の都市労働者の住家は、ゾンネベルグ (Sommerberg) の北部に位置し、その家屋は、小さい、大 二階建の構造であつて、何れも、狭い狭谷へ集中しているのである。是等労働者の約五分二は、家持ちであり、その四分一は、又、馬鈴薯畑の小地面を所有しているが、然し、抵当負債に苦しめられている。家屋は、通常、

室と寢室とから成り、その室は、店屋と仕事場とを兼ねて居り、別に台処があるが、是は、貧弱な各種の家具、道具、材料で詰って居り、絶えず、暑苦しい為、膠及び色素の蒸気が、空気に混じつて、充滿しているのである。冬季及び夏季には、家は、不断に、熱せられ、以つて、床上の燐爐の周圍に並べられている商品の、一層速かに乾燥せんことを、図るのである。両親と子供等が、仕事に、相互に触れ合つてゐる室内には、寢台が、境を接して、並べられ、寢室は、狭くして、一台又は二台の寢台に対して、空間を提供し、是等の寢台には、六人又は其以上の人が、もぐり込まねばならぬ状態である。為めに、彼らの三人又は四人が、一台の寢台で、満足せなければならぬ。冷涼な、大抵通風のない寢台へは、暑い蒸気が、居室から、流れ来り、以つて、湿気を散布するのである。

而して、一家族で、是等の狭い室に留るならば、尚お、幸福である。家賃は、極めて高く、一家族に対して、殆ど、支払い得ないのである。村落に於いては、多数家族の共同居住も行われ、ゾンネベング (Sommerberg) に於いても、亦、廿五、卅、乃至、其以上の人々が、僅かの室を有する、通りに面した、二階建の、低い家に押し合つて、居住しているのである。

次に、是等の人々の栄養状態であるが、馬鈴薯が、主食であり、「朝に馬鈴薯、昼には煮出の汁、夕には衣服、而して、永久に馬鈴薯」、此の一句は、玩具製作者の飲食の楽しみ、口腹の楽しみを括約して、余す処なきものである。

而して、衣服の点を、顧みるに、是は、肉体の上に、唯一枚の肌着を、着るだけで、是が、大人の、通常の場合であり、子供は、屢々、唯一着の衣物を持つのみである。従つて、彼らは、仕事のない時は、かなり永い間、

裸体のままで、歩き廻ることがある。

かかる生活振りの結果は、直ちに、想像し得られる処である。街路を通つて、漂うて居る処の、新鮮な空気の中で、人々は、疲労し、而して、病弱であり、陰鬱で、徹夜して、疲れている様な外觀を、呈して居るのである。身体の姿勢は、屈つて居り、胸の形態は、扁平であり、身長は、短かく、子供と大人との間の死亡率は、極めて大であり、その死因は、多くは、肺患である。

以上述べ来た処が、チューリンガー・ヴァルト（Thüringer Wald）に於ける、玩具製作者の運命である。

次に、眼を転じて、チロル・アルプス（Tiroler Alpen）に於ける玩具製作者に就いて、考察を進めて見よう。

ブレンネル（Brenner）を越えて、ヴァイトブルック（Vaidbruck）駅に於いて、ブリクセン（Brixen）とボーンデン（Bogen）との間の鉄路を棄てると、漸く、一八五六年以来、一の通路によって、交通に開放されてゐる、一条の、狭い峡谷に、グレーデン（Gröden）の溪谷が、注ぐ処に至る。此の溪谷は、アイザックタール（Isacktal）から、六時間にして、南東へ、アルプ・フェラーラー（Alp Ferrara）まで、連亘してゐるのである。此の溪谷の四千の住民は、その近隣のエンネベルグ（Enneberg）の住民の如くに、レートローマーネン（Rätoromanen）に属してゐる。教会に於いては、然し、地方の方言以外に、尚お、より多く、伊太利語、稀には、又、独逸語が、夫々、使用されてゐる。然し、多くの人々は、独逸語を、よく理解してゐる様である。可なり大なる聚落は、谷の底部に位置し、即ち、セント・ウルリヒ（St. Ulrich）、ザンタ・クリスティナ（Santa Christina）及びザンタ・マリア（Santa Maria）、其の他の、多くの町は、プフェルス（Pufels）、ルンガディチ（Rungaditsch）及びユーベルヴァッサー（Überwasser）等の傾斜地に沿う高地に臨んで居る。谷は、可なり狭く、その下

方には、淡緑色を帯びる草地、その中間に、可愛らしい家屋が、多数、散布しているのを見受ける。更らに、切りつめた耕地、上方の、針葉樹の密林、その下方に聳立する、赤くきらめく山頂と白雲石の岩角、凡そ、是等の景観は、一幅の絵画、而かも、アルプス山脈 (die Alpen) に於いてすら、見ることの出来ない、親しみのある、平和的な、又、同時に、大規模な絵画であらう。

此処に於いては、吾人は、玩具家内工業を、その、親しげなる方面から、知ることが出来る。

グレーデン (Gröden) に於ける木材彫刻が、何時、初めて、産業として、経営されるに至ったか。此の問題は、尚お、決定しえないのである。何れにしても、書物の伝える、次の伝説は、誤りである。それは、第十八世紀に、此の地方へ移住して来た処の絵の枠の製作家たるヨハン・デーメッツ (Johann Demetz) と云う人が、此の溪谷に於ける、最初の彫刻者なりとする説である。古来、チロル (Tirol) の各地方に於いては、その農民、何れも、小刀を用いて、各種の、簡単な道具を彫刻する術を心得て居り、而して、此の谷の教会に於いても、すでに、第十七世紀に由来する処の、土着の労働者の製作にかかる彫刻品を見受けるのであって、而かも、是等は、並々ならぬ芸術品の域に達するのである。信仰固き国、「神聖な国チロル (Tirol)」に於いて、信仰の対象となるものを、彫刻して、是を営業とすることは、何人と雖も、想到する処であらう。現今、尚お、聖像、基督誕生像、基督磔刑像、聖墓等を作ることが、グレーデン (Gröden) に於ける工業の一部分を構成し、前貸人の価格表は、総ての大きさに於いて、又、各々の価格に於いて、是等のものを、その内容としてしているのである。

当初は、唯男子のみが、彫刻用の、鉄の道具を、持ち運んだ様であつて、婦人は、レースを編み、又、網細工をして、是等は、何れも、販売に供したのである。其の後に至り、家族が、冬に働いて得たものを、春になつて

から、父又は年上の子供の一人が、一の所謂仮小屋で荷造りして、是を背に負い、行商しながら、地方を歩き廻ったのである。成人の少女と雖も、亦、婦人用の農夫衣裳の縁飾及び重要なものを以って、その商業に赴いたのである。世人は、湛能な、無邪気に親しげな、奇妙に片言交りの独逸語で話す人々から、喜び好んで、買い取ったのである。而して、彼等は、驚く可き恬淡な性質の持ち主であり、且つ、つましい性格であつたために、その行商は、よい儲けをもたらし、やがて、人々は、此の行商の旅を、更らに、拡大して、アムステルダム(Amsterdam)、倫敦(London)、巴里(Paris)に至るまで、グレーデン(Groden)の人々は、その行商を試み、その背に商品を負い、若干の箱を運搬したのである。かかる行商人が、幸福を得たとすれば、彼等は、その故郷の溪谷に於いて、買物をし、是を持つて、ライプチヒ(Lipzig)、フランクフルト(Frankfurt)、リヨン(Lyon)、マルセイユ(Marseille)等のメッセへ赴いたのである。彼等の中の、若干の人々は、全然、外国に定住し、而して、自国の、又は、他国の商品の倉庫を建設し、かくして、大商人、又は、銀行家となつたものもあり、或いは、形成的芸術に、身を転じた人もある。かくして、吾人は、やがて、ベルポナー(Belponer)、マウローネル(Mauroner)、ペラトナーネル(Peratoner)、フィナッツェル(Vinutzer)等を、フロレンス(Florence; Florenz)及びヴェニス(Venice; Venedig)、トリエスト(Triest)及び羅馬(Rome; Rom)、マドリード(Madrid)及び巴里(Paris)、ブラッセル(Brüssel)及びハムブルグ(Hamburg)、加之、露西亜、メキシコ及び南亜米利加の大都市に於いてすら、見出すのである。赤貧、以って、彫刻家の荷物を、背に負い、出稼に行った人々の中で、その若干は、後に、富める商人として、溪谷へ戻り、同国の婦人と結婚し、貧民及び教会の爲めに、大なる建物を建設した人もある。

交通事情が、変化すると同時に、グレーデン地方(Grieden)に於ける工業の全体の経営方法及び工業自体も、亦、変化を遂げるに至つたのである。即ち、販売の事業は、漸次、溪谷に定住せる前貸人の手中に歸し、現在にあつては、ウーリヒ(St. Ulrich)に於ける四個の大商會と、ヴォルケンシュタイン(Wolkenstein)に於ける、若干の、小さな商會とが、殆ど、その全体の商業を、その手中に収めているのである。是と並んで、僅かの自己生産者が、尚お近隣及び上部伊太利に於ける市場を訪問する。レースの編物と、網細工とは、工場労働の競争の影響を蒙つて、殆ど、中止するの止むなきに至つたてである。かくして、六歳の子供から、七十歳の老母に至るまで、何れも、彫刻に従事しているのである。